

【短歌の部】受賞者

■小学生の部

(名前順：応募総数 1,830 首)

賞	作品	氏名	学年	縣市
入選	しかられて はじめてしまった わるいこと 今は分かるよ 大切なこと	安藤 夏姫	3年	愛知県東海市
	にぎるとね にぎりかえすよ ちいさなて ひとみにうつる わたしのえがお	川本 真優	1年	愛知県東海市
	「働いた あのご飯は うまいなあ」 父の言葉に みんなほほえむ	林 菜乃	6年	岐阜県恵那市
	おかあさん おかえりなさい つかれてる おこめやったよ おんどくきいて	藤山 紗歌	3年	東京都日野市
	お母さん 産んでくれて ありがとう 私もいつか 命をつなぐ	森澤 奈々	6年	岐阜県恵那市

■中高生の部

(名前順：応募総数 2,404 首)

賞	作品	氏名	学年	縣市
入選	ありがとう その一言が うれしくて 何度もたたく かあさんのかた	大西 弘華	中1	愛知県東海市
	大家族 おいしいおかず 奪い合い 遠慮のかたまり 我が家に無縁	片桐 雅彰	中1	岐阜県恵那市
	朝けんか 「ごめんね。」それが 言えないの これで許して 「いってきます。」	須川なつみ	高1	岐阜県郡上市
	公園で 夕暮れ遊んだ 思い出が かけがえのない 祖父との宝	平林 春菜	中1	岐阜県恵那市
	成長期 父の身長 越えたけど 父の背中が まだまだ大きい	福田 亮真	高1	岐阜県郡上市

■一般の部

(名前順：応募総数 146 首)

賞	作品	氏名	縣市
入選	一人では ないと感じる 温かさ 繋いでくれる 家族という手	宇都宮千瑞子	愛媛県松山市
	「お母さんは よくやってるよ」 さりげない 娘のひと言は 明日へと繋ぐ	桂川美那子	岐阜県恵那市
	母が吾を 分からなくなった その日から 一日一日が 母の日となり	金澤 諒和	大分県大分市
	幼な孫 押花してと さし出す手 四ツ葉のクローバー しかと握りて	志津 宏子	岐阜県中津川市
	子を持ちて 初めて親と なるなれば 親というもの 子が作るなり	西部 稔	長崎県長崎市

恵那市先人顕彰事業

# 第13回下田歌子賞 表彰状授与式・記念イベント

～ テーマ 家族 ～

◇日 時◇

平成27年12月19日(土)

◇会 場◇

岐阜県恵那市 岩村コミュニティセンター

◇スケジュール◇

11:30 表彰状授与式

13:00 記念イベント

- 恵那市少年少女合唱団による下田歌子作校歌の合唱
- 挨拶 可知義明 (岐阜県恵那市長)
- エッセイ小学生の部「ふるさと先人賞」受賞作品発表と会場投票
- エッセイ中高生の部「ふるさと先人賞」受賞作品発表と会場投票
- エッセイ一般の部「最優秀賞」受賞作品朗読
- 短歌の部「入選」作品発表
- 審査委員による講評  
童門冬二 (作家)・吉田公平 (東洋大学名誉教授)・山内純子 (元全日空客室担当役員)
- 会場投票結果発表と表彰
- 挨拶 田島眞 (実践女子大学・実践女子大学短期大学部学長)
- 恵那市の特産品が当たる抽選会

審査委員：童門冬二 (作家)、吉田公平 (東洋大学名誉教授)、山内純子 (元全日空客室担当役員)、  
田島眞 (実践女子大学・実践女子大学短期大学部学長)、可知義明 (岐阜県恵那市長)、  
寺田昭一 (PHP総研シニア・コンサルタント)

主 催：恵那市先人顕彰事業「下田歌子賞」実行委員会  
岐阜県恵那市、恵那市教育委員会、学校法人実践女子学園

共 催：株式会社 PHP 研究所

後 援：岐阜県教育委員会・多治見市教育委員会・土岐市教育委員会・瑞浪市教育委員会・  
中津川市教育委員会・東京都日野市・日野市教育委員会・嚶鳴協議会 (恵那市・大野町・  
沖縄市・小田原市・木曽町・釜石市・多久市・竹田市・田原市・東海市・長野市・日田市・養父市・米沢市)

## 【エッセイの部】 受賞者

### ■小学生の部

(名前順：応募総数 87点)

賞	作品タイトル	氏名	学年	県市
ふるさと先人賞	私の家族	石垣 実鈴	6年	愛知県田原市
	大切な家族	小栗 結奈	4年	岐阜県恵那市
	いもうととのけんか	小栗 和奏	2年	岐阜県恵那市
	ぼくの家族	小野 勇人	6年	岐阜県恵那市
	私の好きな時間	後藤 愛乃	6年	岐阜県恵那市
	ぼくが出来る親孝行とは？	田中 彰太	6年	岐阜県養老郡養老町
	私のおばあちゃん	藤井 美緒	6年	岐阜県恵那市
	大切な家族	堀川 颯汰	6年	岐阜県恵那市
	家族	丸山 晏菜	6年	岐阜県恵那市

### ■中高生の部

(名前順：応募総数 1,283点)

賞	作品タイトル	氏名	学年	県市
ふるさと先人賞	家族っておもしろい	加藤 将虎	中2	岐阜県恵那市
	おばあちゃんの愛情	高橋 茜	中2	山形県米沢市
	忘れられない温もり	豊園 孝樹	高3	鹿児島県鹿児島市
	家族へ ～思春期の私を乗り越えたい～	林 祐希	中1	岐阜県恵那市
	災害から学んだこと	林 里穂	高1	東京都江東区
	妹によって学んだ事	坂野 奈夕	中1	愛知県東海市
	おはよの約束	藤島 美月	中2	東京都日野市
	祖母の変化	森井 愛	高3	岐阜県恵那市
	おじいちゃんからの教え	余語あやな	中3	愛知県東海市

### ■一般の部

(応募総数 166点)

賞	作品タイトル	氏名	県市
最優秀賞	ただ、笑っていて	森 惇	青森県八戸市
優秀賞	家族のいる喜び	栄 直美	愛媛県松山市
	家族は船に乗って	西崎めぐ美	大阪府大阪市
	カレーの味は涙味	木下 宏明	岐阜県土岐市
佳作	母からの手紙	柘植 紀衣	東京都世田谷区
	ふたつの顔	逸見 修	新潟県佐渡市
	息子は息子	布目 欣生	北海道札幌市
	大きな“手”と小さな“て”	石黒 廣美	愛知県知多郡南知多町
嚶鳴協議会賞	僕の息子	松下 弘美	兵庫県神戸市
	『大きな未来型家族』でいこう	清水 文子	東京都渋谷区

### 下田歌子について

わが国女子教育の先駆者で、歌人としても名高い下田歌子は、安政元(1854)年美濃国岩村藩(現在の恵那市岩村町)に生まれました。幼い頃より和歌を詠み、漢詩を吟ずるなど学才に恵まれ、明治4(1871)年16歳のとき父の後を追って上京。翌年宮中に女官として出仕し、その和歌の才能を愛でられた皇后陛下(後の昭憲皇太后)から歌子の名を賜りました。

明治12(1879)年に宮中を辞した後、自宅に桃天学校を開設して女子教育に力を注ぎ、明治18(1885)年に創立された華族女学校では学監兼教授を務めました。2年余の欧米女子教育視察を経て、明治32(1899)年に私立実践女学校(現在の実践女子大学)と女子工芸学校を創立しました。その後も女性の自立自営をめざして、裁縫学校や夜間学校を各地に設立するなど、新しい時代の女子教育に一生を捧げ、昭和11(1936)年82歳の生涯を閉じました。

下田歌子が遺した言葉「女性の清らかな徳性と豊かな情操をもって社会の弊を正せ」や「揺りかごを動かす手が世界を動かす」に代表されるように、下田歌子は高い志を持って近代日本の地位向上に力を尽くしました。



(実践女子大学図書館所蔵)